

年間第三主日（神のことばの主日）

第一朗読 ネヘミヤ 8・2-4a、5-6、8-10

第二朗読 一コリント 12・12-30

福音朗読 ルカ 1・1-4、4・14-21

2022.1.23

カトリック高円寺教会

主任司祭 吉池好高神父

今日の主日は、「神のことばの主日」というふうに定められています。改めて、わたしたちに語りかけてくださる、聖書をとおしての神様のみことばに心を開き、わたしたちの目を主のみことばに向けることができますように祈り求めたいと思います。

日曜日、教会にいらっしゃって、おそらく皆様の一番の心の拠り所は、このミサの中でいただくご聖体であると思います。それと同時に、そのご聖体が本当にイエス・キリスト様のお体、わたしたちのいのちの糧としてお迎えするためには、聖書を通して語られるイエス様のみことばに心を向けなければなりません。

「これは、あなたがたのために渡されるわたしの体である」。イエス様は弟子たちと食卓を共にしながら、パンを裂いて弟子たち一人ひとりにお与えになりました。そのイエス様のおことばによって、弟子たちが分け合ったあのパンは、イエス様のお体そのもの、弟子たちを養ういのちの糧となります。その同じご聖体を日曜日のミサのたびごとにいただくわたしたちも、そのご聖体が何を意味しているのか、どのような恵みをわたしたちに与えるのか、わたしたちのいのちの糧となり、わたしたちのいのちそのものを養ってくださるイエス様のお心をしっかりと受け止めさせていただくために、イエス様のおことばに心から耳を傾けることができますように。

今日のこのミサを特別にそのようなイエス様のわたしたちに向けられている、わたしたちと同じ一人の人間となられてわたしたちの中に来られ、わたしたちが教会を通して、その信仰の中でわたしたちがいただくこのご聖体がイエス様のいのちの糧、そのように信じ、そのように受け止めさせていただいている。そのわたしたちの信仰を、教会の主を信じる者たちの一人として、心を改めて、主がそうおっしゃってくださるわたしたちのいのちの糧、わたしたちの心の拠

り所として、今日このごミサの中でご聖体をいただきましょう。

大きな喜びの中で旧約聖書が語っているエズラのことばを聞いて、そのことばに心から動かされて、そして、自分たちのその時の状態を嘆き悲しみながらも、エズラのことばによって「今日泣いてはいけない。今日は喜びの日だ。神様がわたしたちにあの捕囚の時を終わらせてくださり、ここに集めてくださった。神様の喜びの日を共に皆で喜び祝おう。喜びにこそ、わたしたちの力がある」、そのような聖書のことばをわたしたちも聞いて、喜びのうちにこのミサの中でイエス様のお体、イエス様の御血を頂かせていただきましょう。